

第5回生物の多様性を育む農業国際会議（ICEBA）2018 開催要項

The 5th International Conference for Enhancing the Biodiversity in Agriculture 2018

2018年6月8日現在

開催趣旨

房総半島最大の流域面積である夷隅川の中流域から下流域に位置するいすみ市は、ミヤコタナゴ最後の生息地となっている谷津の地形を無数に抱え、夷隅川とその支流が運んだ「夷隅統」と呼ばれる低湿土が内陸部全域を覆う、千葉の三大米産地と言われる大規模な水田地帯を形成しています。いすみ市の沖合には「器械根」と呼ばれる水深が浅く広大な岩礁地帯が広がり、ここに海藻が茂る海底の森が形成されたことで、全国トップクラスの水揚げを誇るイセエビ漁をはじめとする豊かな里海漁業が営まれています。この里山と里海は、夷隅川とその支流が回廊となり有機的に結ばれていることで、生物多様性豊かな「流域」が形成されています。

2012年5月、いすみ市は「自然と共生する里づくり連絡協議会」を設立し、有機稲作を中心とした環境にやさしい農業の普及をスタートさせました。2015年2月には夷隅川流域を有機的連続性が伴う一体的空間として捉え、複合的な価値を有している里山、里川、里海を多様なステークホルダーの協働により一体的に管理する「いすみ生物多様性戦略」を策定し、生物多様性の向上と持続的利用に基づく有機農業の推進、「有機堆肥づくりと海藻の資源化による里山里海資源循環」、「水田ビオトープの創出と生きもの調査」、「人もコウノトリも暮らせる農村環境整備」、「学校給食における有機米使用」、「有機稲作と生物多様性を扱った食農教育」等に取り組んでいます。

2017年から、いすみ市の学校給食で使用されるお米は全て、いすみ市内で生産された有機米になりました。これは、生物多様性の向上と食の安心・安全が結びついた有機米を子どもたちの基本食料に位置づけ、心身ともに健康な子どもたちを育成するとともに、併せて子どもたちに食を仲立ちとした環境や農業、文化、地域社会などが一体となった総合的な学習を施しながら、生物の多様性を育む農業が社会の基盤を支える多面的な価値を有していることを、子どもたちに、そして地域に浸透させ、循環や持続可能性に基づいた社会への転換を促すためのものです。いすみ市の学校給食全量有機米の取組は、生物多様性の主流化に向けた新たな社会システムとして、今、内外から大きく注目されています。

ICEBAでのこれまでの議論と参加者の長年にわたる努力は、日本において有機農業推進法（2006年12月8日）の成立とともに日本型直接支払制度（2015年6月13日）の法制化に伴い、生物多様性の増進や地球温暖化の取組を実施する環境保全型農業推進グループへの支援が本格化するなど、大きな成果につながっています。

ICEBAに参加する自治体においては、基盤となる生物多様性の維持・向上が持続可能な社会実現に不可欠な課題であり、生物の多様性を育む農業が、生命産業として農業の未来を担うモデルであるとの共通認識に至っています。

2018年、千葉県いすみ市で開催される第5回ICEBAは、これまで4回にわたって開催されたICEBAの成果を引き継ぎ、いすみ市、日本、各国で取り組まれてきた生物の多様性を育む農業の現状を整理するとともに、生物の多様性を育む農業と既存の社会システムとの融合をどのように図るべきか、一層の議論を通し手法の確立を図る会議としたいと考えます。

つきましては、国内外の環境保全型農業や自然保護活動を推進してきた農業者、団体、河川管理者、研究者、消費者、企業、行政、教育関係者等に広く呼びかけ、「第5回生物の多様性を育む農業国際会議（ICEBA）2018 in いすみ」を開催します。

主催

第5回生物の多様性を育む農業国際会議（ICEBA）2018 実行委員会
自然と共生する里づくり連絡協議会

後援

農林水産省・環境省・国土交通省関東地方整備局・千葉県・IFOAM ASIA（申請中）

開催日時

2018年7月20日(金)・21日(土)・22日(日)

場所

岬ふれあい会館(千葉県いすみ市岬町東中滝 720-1)JR 長者町駅近く 他

入場料

無料

来場予定人数

500名

参加申込

いすみ市 HP(<http://www.city.isumi.lg.jp/>)に掲載した申込専用サイトを通じて申込
申込先：株式会社近畿日本ツーリストコーポレートビジネス

プログラム※変更を伴う可能性があります。

<1日目>サイドイベント

2018年7月20日(金) 13:00~17:00

I. 第13回日韓田んぼの生きもの調査交流会

(上総一ノ宮駅~いすみ市荻原古屋谷周辺の有機水田・水路・小川の生きもの調査)
参加無料

II. いすみの生物の多様性を育む農業現地見学

(上総一ノ宮駅~みねやの里~伊大知農場~土着菌完熟堆肥センター~ライステラスカフェ) 参加費：500円

III. エクスカーション SATOYAMA ㊦加線いすみ鉄道に乗って、房総の里山をめぐる

(いすみ鉄道大原駅～上総中川駅～波の伊八・行元寺～高秀牧場ミルク工房～いすみ環境と文化のさとセンター) 参加費：500円

IV. エクスカーション SATOUMI いすみの里海と^{きかいね}器械根クルーズ

(大原駅～大原漁港～クルーズ船周遊～太東崎灯台～太東海水浴場) 参加費：500円

V. エクスカーション ORGANIC LIFE いすみのオーガニック&マクロビライフ

(大原駅～酒造木戸泉～ブラウンスフィールド～風の谷ファーム) 参加費：500円

<2日目> 岬ふれあい会館、岬公民館

2018年7月21日(土) 司会：鈴木 希依子(木更津・宝家 若女将/メディアパーソナリティ/女優)

9:45 開会セレモニー 岬ふれあい会館 文化ホール

開会宣言

主催者あいさつ 太田 洋委員長(いすみ市長)

来賓あいさつ

来賓紹介

祝電披露

特別ゲスト 木村 弓(歌手・作曲家)

10:15 鼎談「第5回 ICEBA の成功に向けて」

稲葉 光國(NPO 法人民間稲作研究所)・呉地 正行(日本雁を保護する会)・
浅野 正富(NPO 法人ラムサール・ネットワーク日本)

10:45 休憩

10:50 基調講演 大津 愛梨(一般社団法人 GIAHS ライフ阿蘇)

11:50 休憩・昼食(いすみの恵み弁当<予約販売700円>・飲食販売ブース<屋外>)

昼食場所(岬ふれあい会館2階ふれあい広間)で映画「ホッパーレース～ウソカとイネと人間と～」上映(11:55～)

ポスター展示(岬ふれあい会館1階ホワイエ)

13:00 アジアの生物多様性を育む農業、各国・自治体報告(同時通訳各25分)

①ブータン ガネーシュ チェトリ(農林省農業局 農業スペシャリスト)

②フィリピン マイケル アグバヤニ カララモ(ノースウェスタン大学 生態系
管理・開発責任者)

③韓国 パク グアンレ(国立農業科学院 有機農業科 理学博士)

④日本 太田 洋(千葉県いすみ市長)

14:40 休憩と移動

ポスター展示(岬ふれあい会館1階ホワイエ)

15:10 分科会① 農業技術分野において生物多様性の主流化をめざす

(日・韓・英) 岬ふれあい会館 文化ホール

報告1 成田 市雄 (コウノトリ育むお米生産部会【兵庫県豊岡市】)

報告2 矢澤 喜久雄 (いすみ市環境保全型農業連絡部会)

報告3 ノーデン レプチャ (農林省農業局【ブータン】)

報告4 チュ ジョンサン (プルム主穀環境営農組合法人【韓国】)

報告5 古谷 慶一 (古谷農産【栃木県大田原市】)

座長: 稲葉 光國 (NPO 法人民間稲作研究所)

副座長: 田坂 興亜 (アジア学院)

分科会② 生物多様性向上に貢献する田んぼの生きもの調査

(日・韓・英) 岬ふれあい会館 会議室1・2

報告1 呉地 正行 (日本雁を保護する会)

報告2 船橋 玲二 (NPO 法人田んぼ)

報告3 林 鷹央 (一般社団法人生きもの認証推進協会)

報告4 池田 浩明 (国立研究開発法人農研機構農業環境変動研究センター)

報告5 イム ジョムヒャン (韓国水田湿地ネットワーク)

コメンテーター: マイケル アグバヤニ カララモ (ノースウェスタン大学【フィリピン】)

コメンテーター: 齊藤 光明 (NPO 法人オリザネット)

座長: 呉地 正行 (日本雁を保護する会)

副座長: 浅野 正富 (NPO 法人ラムサール・ネットワーク日本)

分科会③ 地場産有機農産物の学校給食をどう実現するか

(日) 岬ふれあい会館 1階 検診室2・3・4

報告1 牧下 圭貴 (農と食の環境フォーラム)

報告2 安井 孝 (愛媛県今治市産業部)

報告3 澤口 聡子 (新潟県三条市教育委員会教育総務課)

報告4 福原 圧史 (NPO 法人島根県有機農業協会)

報告5 鮫田 晋 (千葉県いすみ市農林課)

座長: 大江 正章 (NPO 法人全国有機農業推進協議会)

分科会④ 水田生態系の貴重種の保全と農業

(日・韓) 岬公民館 2階 視聴覚室

報告1 番匠 克二 (環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室)

報告2 鈴木 規慈 (ミヤコタナゴ保全研究会)

報告3 佐竹 節夫 (コウノトリ湿地ネット【兵庫県豊岡市】)

報告4 山下 敏也 (千葉県野田市自然経済推進部)

報告5 松沼 健 (栃木県小山市産業観光部農政課)

報告6 キム ソンジン (チャンニョン郡庁ウポ沼管理事務所【韓国】)

座長: 金井 裕 (日本ツル・コウノトリネットワーク)

副座長：布留川 毅（千葉県野鳥の会）

分科会⑤ 生物多様性の主流化と流域のネットワークづくり

（日）岬公民館 2階 第3・4研修室

報告1 吉川 宏治（国土交通省関東地方整備局河川部河川環境課）

報告2 中川 一郎（農林水産省大臣官房政策課環境政策室）

報告3 金丸 治子（イオン株式会社グループ環境・社会貢献部）

報告4 西村 いつき（兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科/
兵庫県農政環境部農林水産局農業改良課）

報告5 泉 理彦（徳島県鳴門市長）

報告6 小池 理雄（小池精米店【東京都渋谷区】）

コメンテーター：長田 啓（環境省自然環境局自然環境計画課生物多様性主流
化室）

座長：関 健志（公益財団法人日本生態系協会）

18：30 スローフード交流会 岬公民館大会議室 会費：5,000円

<3日目> 岬ふれあい会館 文化ホール

2018年7月22日（日）司会：鈴木 希依子（木更津・宝家 若女将/メディアパーソナリティ/女優）

9：00 分科会報告（各10分）

9：55 総合討論

11：05 総括と宣言採択

11：20 閉会セレモニー

11：30 閉会宣言

過去の開催実績

■第1回2010年 兵庫県豊岡市

第1回ICEBAは、コウノトリの野生復帰をめざす地域ぐるみの「コウノトリを育む農法」の推進を確認し、広く内外にアピールする歴史的会議でした。豊かな自然環境を取り戻し、環境と経済の両立をめざす地域経済の新たな発展モデルとして日本・韓国・中国をはじめ、アジア各国の農業と地域経済の新たな発展に大きな影響をもたらしてきました。韓国・昌原市で開催された第10回ラムサール条約締約国会議で採択された「水田決議」が、愛知県名古屋市で開催された第10回生物多様性条約締約国会議において結実し、「水田の生物多様性を育む機能」が国際的にも認知され、「国連生物多様性の10年」の中核を占める取組になったことで、大きな成果をあげました。

■第2回2012年 新潟県佐渡市

第2回ICEBAは、豊岡市と時を同じく環境創造型農業に取り組んできた、新潟県佐渡市において、「トキの野生復帰」という佐渡市民の長い間の希望を原動力に、佐渡市全体が「世界農業遺産」に登録されるという国際的な取組のなかで開催されました。佐渡市

では、大佐渡山脈・小佐渡山脈、そして国中平野という美しい自然環境を守るために、平野部の水田や急峻な棚田においても丁寧な草刈り作業を実施しており、環境保全に対する島ぐるみの努力を島外に広く伝えることによって、地方経済発展の方向を示してきました。

■第3回 2014年 宮城県大崎市

第3回 ICEBA は、ラムサール条約登録湿地を持つ宮城県大崎市で開催され、渡り鳥ガンの越冬地として名高い蕪栗沼をベースに、ササニシキを生んだ古川農業試験場、大崎平野を流れる江合川など豊かな自然と稲作、そして地酒に象徴される豊かな食文化や自然と共生する産業の歴史を確認し、生物多様性に影響を与えるような、農薬に依存した防除のあり方を問い直し、生物の多様性による総合防除の普及を進め、多くの消費者に環境保全型の農業を進める農業者の努力を伝え、ともに努力しあうことの重要性を示しました。

■第4回 2016年 栃木県小山市

第4回 ICEBA は、ラムサール条約登録湿地である渡良瀬遊水地のある栃木県小山市において、第3回までの ICEBA の成果を確実に受け継ぎ、日本全体、そして、先進県の一つである栃木県で取り組まれてきた生物の多様性を育む農業の全体像を整理し、その中核を占める小山市の取り組みをはじめ、栃木県及び関東各地における自治体ぐるみの新たな環境保全型農業推進の課題と展望を切り開く会議となりました。生物多様性の維持・向上が持続可能な社会実現に不可欠な課題であり、生物の多様性を育む農業が、生命産業として農業の未来を担うモデルであることを示しました。